

## 仏像と建物

AAC2019でグランプリを頂いて、美術旅行をどこへ行こうかと思っていた矢先でコロナウィルスの流行があり、海外へはとてもじゃないが行きづらく、国内で場所を絞った。

AACは彫刻と建築の出会いの場であるからして、彫刻と建築というテーマにとっても興味を持っていた。もともと彫刻は建築とともにあった。柱として、門として、魔除、守護的な意味や思いを込められて発展してきた。その造作や意味合いをより純化させるようにいつしか建築的な役割を失い、単体で観賞されるようになった。

私個人としては彫刻作品は特にだが、作品をどのような条件で見るかというのは鑑賞行為の根幹であると考え。「どのような場所に」「どのような作品があるか」は同じ比率で大事なことであるし、その二枚のカードの組み合わせで全く別の表現ができるとも考えている。これからはそういった面も意識にいれながら制作をしていくべきだとも思っている。

大学の制作だけではこういった経験はできなかったと思うし、総合的な表現は作家業に限らず身につけたいことだと思った。そこで場所と作品が一体になった見せ方をしたものを観に行きたいと思ったが、すぐに思いついたのは仏像だ。仏像はそれが納められる建物を大きな厨子に見立てていることがあったり、宗教的な意味合いにより仏像と建物が密接に関係し合っている。この世ならざるものを見た、という鑑賞体験をさせるために様々な工夫がされている。

兼ねてより見てみたいと思っていた仏像がある。福井県勝山市に《越前大仏》だ。



**清大寺全景図**

**五重塔**  
本願寺の五重塔。本願寺の菩提心で建てられた五重塔は、日本最大の五重塔です。本願寺の五重塔は、本願寺の菩提心で建てられた五重塔です。本願寺の五重塔は、本願寺の菩提心で建てられた五重塔です。

**九龍壁**  
九龍壁は、中国の宮廷建築の模倣に由来する。本願寺の九龍壁は、中国の宮廷建築の模倣に由来する。本願寺の九龍壁は、中国の宮廷建築の模倣に由来する。

**日本庭園**  
本願寺の日本庭園は、心字池を中心とした。本願寺の日本庭園は、心字池を中心とした。本願寺の日本庭園は、心字池を中心とした。

**大仏殿**  
大仏殿は、本願寺の最大規模の建築物です。大仏殿は、本願寺の最大規模の建築物です。大仏殿は、本願寺の最大規模の建築物です。

**仁王像**  
大門には、高さ約17メートルもある仁王像が2尊あります。大門には、高さ約17メートルもある仁王像が2尊あります。大門には、高さ約17メートルもある仁王像が2尊あります。

**拝観時間のご案内**  
8:00 ~ 17:00 (冬期16:00)  
天候などの理由により、変更または中止になる場合がございます。

**拝観料金のご案内**

| 大人   | 小人   |
|------|------|
| 500円 | 300円 |
| 400円 | 200円 |
| 350円 | 200円 |

大師山 越前大仏 0779-87-3300

勝山市は山間にある開けた土地で、大きな建物はほとんどなく田園の中に勝山城がポツンと見えたのが印象深い街だ。

《越前大仏》は臨済宗妙心寺派の寺院、大師山清大寺にある大仏である。像高17メートル、1987年造立の巨大仏だ。

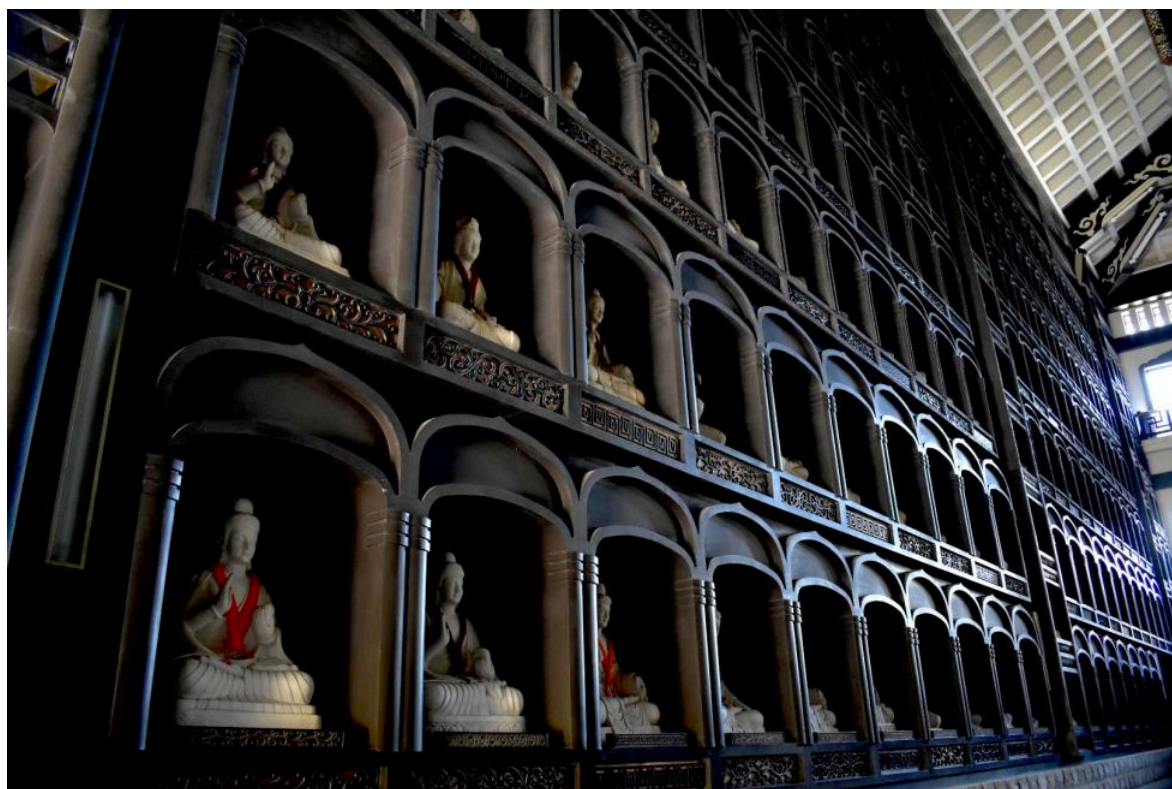
同時期に健立された仏像では牛久大仏や会津大観音などがあり、巨大大仏で観光地化がムーブメントとしてあった。大きさとしてはこれらに比べると小さいがその他の建築物などを見るとここは明らかに異質であった。大仏殿内部は大仏を中心に四体の脇侍、3方の壁を床から天井まで覆い尽くす1281体の坐像が安置されている。これを作ろうと思って実現させてしまったことが何よりの驚きだ。

なぜこのようなものが作られたかと言うとシンプルに観光目的だったそうだ。なので元は正式な寺院ではなかったと言う。（現在は臨済宗妙心寺派の寺院に所属している）

私が非常に興味を惹かれたポイントの一つは、この千体以上の仏像がきちんと壁の窪みに嵌め込まれるようにして納められている点で、まさに仏像のための建築である。大仏殿という建物自体仏像を納めるためだけに建てられているものだが、考えてみるととても面白いことだと思った。より神々しさや威厳を纏わせるための創意工夫が様々なところを感じる。白い石で彫ってあるものは黒い壁、黒い石で彫ってあるものは白い壁に配置されている。窪みに光が差し込むことで仏像がより際立つようになっている。



堂内に電飾はなく、自然光のみで十分明るく見える。そして立体物を強調させる影がとても深いグラデーションで入ることにより一つ一つの存在感を増す。谷崎潤一郎《陰影礼賛》のようにもはや現代ではこのような自然の深い影を目にすることはほとんどない。蛍光灯で全てを均一に照らし出す世界にはないものがこの影の中にはある。御本尊も近くで見るととても大きい。近づけば近づくほどその大きさを体感することができた。自分の足で歩き回ると視点が変わり続け、よりそのスケール感を感じとることができる。これはまさに「体感」だ。





ものを作るだけでなく、こういった環境も効果的に使った表現をしていきたい。  
もう一つ直近でみた仏像で面白いものがあった。神奈川県、長谷寺にある十一面観音だ。  
像高三丈三尺六寸（1,018cm）で木造としては日本最大級になる。建物内部から仏像の全  
体は拝めるのだが、その手前、仏像の両脇には壁が建てられている。  
つまり仏像の両サイドは何もないのだが壁によって仕切りができており、これによって仏  
像本体の周りに空間を感じさせる作りとなっている。  
これも自分が足を動かすことで像の纏っている空間が動きより立体的な見え方が強調され  
る。残念ながら写真撮影ができなかったが、こちらも像を効果的に見せるという点におい  
て心に留めておきたい場所であった。  
彫刻を飾ることによって心に残るような鑑賞体験を生み出したい。設置をすると言うこと  
は少なくとも何十年と人の目に晒され続けることだ。未来に恥じない制作を残すべく、こ  
れからもより実践的に展示活動を行い技術を磨いていきたい。